

事後評価結果

定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

本計画の各事業の整備により、本計画の定量的指標である「走行時間短縮」、「東広島・呉自動車道IC30分圏域拡大」、「市町中心医療施設カバー圏域拡大」、「観光客増加」に対して、一定の効果をあげることができた。その結果、広島都市圏の都市機能の集積・強化を図るとともに、周辺地域からのアクセス性の強化、交通結節点の改善及び交通の円滑化により、中枢拠点機能の向上を図ることができた。また、高規格幹線道路の東広島・呉自動車道と一体となった交通網の形成、交通結節点の機能充実・強化により広域的な交流・連携を強化し、沿線地域における産業活動などの活性化を促進するとともに、中山間地域におけるライフラインの強化などの生活環境整備を行うことができた。島嶼部を含む瀬戸内海沿岸地域における豊かな観光資源を活かした地域振興についても促進することができた。

定量的指標の達成状況

指標① 走行時間短縮

最終目標値	65億円/年縮減	目標値と実績値 に差が出た要因	一部事業箇所において、地元との交渉などにより事業調整が必要となり、事業が完了できず、目標値の達成ができなかった。
最終実績値	43億円/年縮減		

指標② 東広島・呉自動車道IC30分圏域拡大

最終目標値	19,000人増加	目標値と実績値 に差が出た要因	
最終実績値	19,000人増加		

指標③ 市町中心医療施設カバー圏域拡大

最終目標値	14,000人増加	目標値と実績値 に差が出た要因	
最終実績値	14,000人増加		

指標④ 観光客増加

最終目標値	20%増加	目標値と実績値 に差が出た要因	観光客は、平成23年3月11日発生の東日本大震災等の影響により、旅行の自粛も高まったことや、広島県での大型観光キャンペーンも無かったことから、平成23年までは、対象地区も含めて広島県の観光客全体も減少したが、以降は、平成24年の大河ドラマ「平清盛」や平成25年の「おいしい広島キャンペーン」、「広島県destinationキャンペーン」、尾道松江線の三次東JCT・IC～吉田掛合IC間の開通により広島県への観光客は増加した。結果として、平成25年末で、目標の対象地区である、瀬戸内海中部エリア(呉市・東広島市・江田島市・竹原市・大崎上島町)では2%増に留まったが、広島県全体では8%増と、広島県の観光客増に対して、一定の効果があつたと考えられる。
最終実績値	2%増加		

特記事項（今後の方針等）

H26年度末の尾道松江線の全線開通により、広島県の道路網の骨格となる井桁状の高速道路ネットワークが完成するが、都市部の渋滞や、市町村合併に伴う中心地へのアクセスなど、克服すべき課題も多い。本県が直面する課題に対応するため、広島県では、平成23年度から平成27年度までの道路事業の総合的なマネジメント計画として「広島県道路整備計画2011」を策定し、それに基づき道路事業を推進している。本社会資本総合整備計画完了後も、「広島県道路整備計画2011」において、「広域交通ネットワークの確立」、「集客・交流機能の強化」、「災害に強い道路ネットワークの構築」、「安心できる道路空間の形成」、「地域の自立や活力を支える道路の整備」、「道路機能の有効活用」を6つの施策の柱として、選択と集中を徹底し、着実な道路整備を推進していく。